

200816006B

厚生労働科学研究
医療技術実用化総合研究事業：臨床研究基盤整備推進研究

臨床研究フェローシップ構築に関する研究

平成18年度～20年度
総合研究報告書

平成21年(2009年)3月

研究代表者 福原俊一

平成 18～20 年度 総合研究報告書

目次

I	総合研究報告書	
1.	京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野 教授 福原 俊一	3
2.	天理よろづ相談所病院 総合診療教育部 部長 郡 義明	22
3.	洛和会音羽病院 院長 松村 理司	70
4.	社団法人地域医療振興協会 地域医療研修センター センター長 名郷 直樹	75
5.	財団法人聖路加国際病院 薬剤部 薬剤師 渡部 一宏	86
II	研究成果の刊行に関する一覧表	93

I . 総合研究報告書

臨床研究フェローシップの構築に関する研究

主任研究者 福原 俊一

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野 教授

研究要旨

臨床研究を立案・実行する臨床研究者の深刻な人材不足にあつて、本研究は、大学以外の教育病院や地域医療ネットワーク内に、臨床研究をリードする人材育成を目的としたリサーチ・フェローシップ・プログラムを構築するモデル事業である。本研究は、

- I. Awareness (啓発)、II. Education (人材育成)、III. OJT (On the Job Training) の3つの柱で研究を実施した。
- I. Awareness (啓発) : 初年度のニーズアセスメントでニーズの高かった臨床研究のデザインに目的を絞り、本年度は少人数のワークショップの開催を行った。また、臨床研究の実施において障害となっている要因や、実施を促進する方策の抽出を目的に、中堅医師、研修指定病院に対して調査を行った。さらに、多目的 Website の自習教材を充実させた。さらに、初期研修医・中堅医師・病院長などの病院上層部の各群に対し、臨床研究や臨床研究者養成へのニーズ調査を行い、現時点での臨床研究の実施をめぐる問題点を明らかにし、今後の改善策として具体的提案につなげる知見を得た。
- II. Education (人材育成) : 京都大学の Master of Clinical course に若手リーダー候補を受け入れた。また、初年度の教育を継続し、多目的 Website を活用した個人指導を継続した。
- III. OJT : ユニット・リーダーを設置し、研究プロトコル作成や倫理委員会への申請、プロジェクトの実施を開始した。多目的 Website を、市中病院や地域で勤務する臨床医と大学研究者が、協力して研究を進めるためのプロジェクト支援ツールとして活用した。各ユニットおよび薬剤グループで 11 件のモデル研究プロジェクトが実施され成果が得られた。そのうち半数以上はデータ収集を終了し、データ解析、論文作成中である。そのうちの一部は論文化に成功し、海外の学術誌に原著論文が受理された。

A. 研究目的

複雑な診療に直結した疑問に答える臨床研究は現場で活躍する医療者が中心となつて進められなければならないが、我が国には臨床研究の立案・デザイン・実施・解析

等の基礎を理解する医療者は少なく、専門家人材の育成は急務である。

上記の認識のもと、本研究は、大学以外の教育病院や地域医療ネットワーク内に、将来の臨床研究をリードする人材育成を目

的としたリサーチ・フェローシップ・プログラムを構築するモデル事業である。

具体的には、I. Awareness (啓発) : 初年度に、臨床医、看護師、薬剤師に対して臨床研究の人材育成、学習機会、学習コンテンツなどに関してニーズアセスメントを行なう。初年度のニーズアセスメントの結果を活用し、ニーズの高かった臨床研究のデザインのスキルアップを目的に、若手臨床医、看護師、薬剤師等を対象にした少人数のワークショップ等を実施する。また多忙な医療者に種々の情報や教育機会・遠隔学習を提供する場としてWebsiteに臨床研究に関する自習教材を提供する。さらに、初期研修医・中堅医師・病院長などの病院上層部の各群に対し、臨床研究や臨床研究者養成へのニーズ調査を行い、現時点での臨床研究の実施をめぐる問題点を明らかにし、今後の改善策として具体的提案につなげる。

II. Education (人材育成) : 市中病院や地域医療ネットワーク内で、将来の若手リーダーの同定と養成を行う。

III. OJT (On the Job Training) : 初年度に市中病院2病院、および地域医療を担う実地医家グループ内に「臨床研究ユニット」を構築し、そこに初年度～2年度に育成した若手リーダーをユニット・リーダーとして配置し、臨床研究者人材育成プログラムのモデル研究プロジェクトを実施させ、OJTの場とする。

B. 研究方法

I. Awareness (啓発)

<ワークショップ>

初年度は、広範な対象の臨床研究に対するAwarenessを高めるため、多人数のセミナーを開催した。2年は、目的と対象を絞り込み、より少人数のワークショップ形式を用いた。3年次には、新規企画として実際の抄録を1) 研究デザイン、2) 英文、という二つの視点からブラッシュアップするワークショップを実施した。

<ニーズアセスメント調査>

- ・ 初年度には、医師、薬剤師、看護師むけに臨床研究の人材育成に関して、ニーズの有無、ニーズの高い領域・事項の抽出、ニーズが満たされていない理由、希望する学習機会の様式、学習コンテンツなどに関してニーズアセスメントの調査を行った。
- ・ 研修指定病院の病院上層部、中堅医師、初期研修医対象に、臨床研究の専門家人材の育成や臨床研究の実施に関して、ニーズや障害を明らかにするため、研修指定病院の病院長などの上層部、中堅医師、初期研修医の各群に対し、調査を行った。

<多目的Website充実>

臨床研究に関する啓発情報、臨床研究および人材育成に関する総説「臨床研究イントロダクション」や、各種自習教材の提供を行う。さらに、掲示板機能を活用してモデル研究プロジェクトに関するディスカッションの場とした。

II. Education (人材育成)

<若手リーダー候補受け入れ>

京都大学 Master of Clinical course (MCR) と連携した、臨床研究リーダーの育成を行った。

<初年度教育の継続>

初年度の臨床研究に関する系統的な学習を継続した。

<多目的 Website の活用>

個人指導のツールとして、多目的 Website のログ付 ML を活用した。

Ⅲ. OJT

<ユニット・リーダー設置>

各ユニット（2病院・1地域）に京大の人材育成プログラム（MCR）で育成した若手医師をヤング・リーダーとして配置した。ユニットのヤング・リーダーが中心となり、疫学レクチャー、リサーチラウンド、抄読会や臨床研究・統計コンサルテーションなどの教育を行なう。

<プロトコール作成・倫理委員会>

モデル研究プロジェクトを通じて、実際に研究プロジェクトの企画立案に関わり、これを通じて、研究指導を行うことを目的とし、若手医師が研究プロトコールの作成・倫理委員会への申請を行った。

<プロジェクト実施開始>

モデル研究プロジェクトの実施・解析に関わり、これを通じて研究指導を行うことを目的とし、若手医師が研究プロジェクトの実施を開始した。

<プロジェクトの論文化>

モデル研究プロジェクトのうち、いくつかは、解析を終了し、論文化までの一連の研究プロセスを終了した。

<多目的 Website 活用>

プロジェクトの企画立案・実施・解析において、研究指導を行うため、多目的 Website の Web 掲示板、ログ機能つき ML を活用した。

（倫理面への配慮）

モデルプロジェクトでは、研究プロトコールを倫理委員会に申請し、審査のうえ実施している。

C. 研究結果

I. Awareness（啓発）

<ワークショップ>

- ・ 医師・薬剤師・看護師に対して、臨床の疑問をリサーチ・クエスチョンに構造化することをテーマに、ワークショップの開催を全 10 回（19 年度 7 回、20 年度 2 回）行った。
- ・ 全参加者は、医師約 188 名、薬剤師 242 名、看護師 22 名であり、多数の参加者があった。
- ・ ワークショップでは、参加者の高い満足度評価を得られた。さらに、自由回答からは、臨床研究の面白さへの気づきや、リサーチ・クエスチョンの要素の理解や構造化の重要性の再確認ができたという意見がみられた。
- ・ ワークショップのニーズ調査では、本研究が提供したリサーチ・クエスチョンの要素の理解や構造化のスキルへのニーズが、医師・薬剤師・看護師いずれもベスト 3 に入っており、本研究の提供したワークショップは、ニーズに合致したスキルの提供を行えたと考えられる。
- ・ 新規企画として、実際の学会抄録を用いるワークショップを行った。参加者・学会抄録採択者の両者から高い満足度評価が得られた。
- ・ さらに、20 年度は実際の学会抄録を用いるワークショップを発展させ、リサー

チクエスジョンの構造化だけではなく
英文でのブラッシュアップの方策を学
ばせる企画を実施し、参加者・学会抄録

採択者の両者から高い満足度評価が得
られた。

ワークショップ実施概要

対象者	テーマ	日時・場所等	参加者
医師	「臨床研究デザインの基礎」	平成 18 年 9 月 16/17 日 京都大学	約 90 名
	「臨床研究 7 つのステップ（ケーススタディを使って）」	平成 19 年 8 月 18 日 第 1 回へき地・地域医療学会と共催	約 20 名
	「学会賞をとるための 7 つのステップ」	平成 19 年 11 月 10 日 第 15 回家庭医療学会・生涯教育ワークショップと共催	約 20 名
	「魅力ある洗練された研究抄録を作ってみよう」	平成 20 年 3 月 9 日 第 16 回日本総合診療医学会と共催	21 名
	臨床研究の英文抄録ブラッシュアップセミナー	平成 20 年 6 月 8 日 京都大学	38 名
薬剤師	「日常薬剤業務から臨床研究のタネを見つけるコツ」	平成 19 年 3 月 22 日 東京 丸の内コンファレンススクウェア M+	92 名
	「日常薬剤業務から臨床研究のタネを見つけるコツ」	平成 19 年 6 月 9 日 金城学院大学	67 名
	「日常薬剤業務から臨床研究のタネを見つけるコツ」	平成 19 年 9 月 16 日 京都大学	38 名
	臨床研究の抄録ブラッシュアップセミナー	平成 20 年 9 月 21 日 医療薬学会と共催 札幌	45 名
看護師	「日常臨床業務から臨床研究の種を見つけるコツ」	平成 19 年 9 月 16 日 京都大学	22 名

<ニーズアセスメント調査>

- ・ 初期研修医 253 名を対象に、キャリア・パスについての調査を 9 つの研修教育病院で行った。約 66%が将来大学院への進学を希望しており、そのうち 86%は進学目的を臨床研究と回答した。大学院の進学の希望の有無に関わらず、志向する研究領域については、治療法や診断

方法についての開発やこれらの臨床的な有用性を検討する研究への志向性が高く、予防医学、医療倫理、医療経済や医療サービス研究などの社会医学的な要素の強い研究については志向性が低かった。

- ・ 中堅医師（30 歳以上 45 歳未満）310 名を対象に、臨床研究に対するニーズを明

らかにするための Web 調査を行った。対象中堅医師は、薬剤の臨床試験（76%）より、薬剤の臨床試験以外の臨床研究（85%）により関心を持っていることが明らかになった。また、臨床研究の実施に特化した教育に対するニーズも高かった（91%）。

- ・ 研修指定病院の上層部 301 名（施設）に、臨床研究に対する認識を明らかにするための郵送調査を行った。臨床研究実

施への関心は、大学病院・ナショナルセンター（以下大学病院とする）の方が大学病院以外の病院より高い傾向にあった。臨床研究を専門にする医師を雇用する必要があると認識しているのは、大学病院の上層部では 60.6%、大学病院以外の上層部では 18.8%のみであった。公的な研究費から雇用するリサーチ・レジデントの場合、いずれも 50%以上が雇用したいと回答した。

ニーズアセスメント調査

対象	実施年度	対象者数 (回収率)	成果
薬剤師	初年度	106 名 (83%)	
看護師	初年度	208 名 (49.3%)	河野あゆみ、萱間真美、グレッグ美鈴：専門看護師、認定看護師、教育担当看護師における臨床看護研究の教育ニーズの実態、日本看護学教育学会誌 17 (2) : 31-40, 2007.
医師（初期研修医）	三年度	253 名 (73.3%)	林野泰明、福原俊一、RESPEQT 研究グループ：研修医の大学大学院進学希望は低くない、醫事新報 No.4422:70-74, 2009.
医師（中堅医師）	二・三年度	310 名 (14.6%)	三品浩基、横山葉子、川上浩司、福原俊一：臨床医を対象とした臨床研究への関心および教育のあり方についての調査、医学教育 40 (2) : in press.
医師（病院上層部）	二・三年度	301 名 (37.2%)	論文査読中

ワークショップの満足度調査

評価項目	医師 (n=74/85)	薬剤師 (n=202/240)	看護師 (n=15/22)
全体的満足度（5点満点）	4.6	4.4	4.4

1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらとも言えない 4. そう思う 5. とてもそう思う

<多目的 Website 充実>

- ・ e-learning システムを利用した教育として、多目的 Website に 3 つの自習教材を提供した。提供した教材の概要を以下に述べる。
- ・ 「臨床研究ミニレクチャー入門編: 臨床研究の入り口」(名郷直樹) というタイトルで論文のイントロダクションの読み方、文献の検索方法とその整理法についてのコンテンツを提供した。
- ・ 「臨床研究の論文化」(Brian Budgell) というタイトルで、臨床研究をはじめとする医療保健研究の成果を英語で効果的に伝達するのに必要な知識とスキルを身につけるためのコンテンツを提供した(全 14 章)。
- ・ 「メタアナリシス——フィールドとお金がなくてもできる臨床研究」(野口善令) というタイトルで、メタアナリシスの概念と方法についての教材を提供した。
- ・ 「臨床研究イントロダクション」(福原俊一) というタイトルで、臨床研究とは何か(概論)や臨床研究の歴史についての解説を提供した。
- ・ 「リサーチ・クエスチョンの作り方」(福原俊一) というタイトルで、リサーチ・クエスチョンの作り方を 7 つのステップにしたがって、わかりやすく解説した教材を提供した。

多目的 Website 追加教材

実施年度	内容	著者
二年度	論文のイントロダクションを読む	名郷直樹
二年度	文献データベースと検索	名郷直樹
二年度	文献整理	名郷直樹
二年度	第1章 ニーズの評価	Budgell Brian Stephen
二年度	第2章 チェックリストとガイドライン	Budgell Brian Stephen
二年度	第3章 参考文献と情報源	Budgell Brian Stephen
二年度	第4章 英語の使い方	Budgell Brian Stephen
二年度	第5章 抄録(Abstract)と要約(Summary)	Budgell Brian Stephen
二年度	第6章 効果的な「緒言」(Introduction)を書く	Budgell Brian Stephen
二年度	第7章 効果的な「方法」を書く	Budgell Brian Stephen
二年度	第8章 効果的な「結果」を書く	Budgell Brian Stephen
二年度	第9章 効果的な「考察」を書く	Budgell Brian Stephen
二年度	第10章 フォーマット	Budgell Brian Stephen
二年度	第11章 査読と論文掲載のプロセス (未公開)	Budgell Brian Stephen
二年度	第12章 オーディオビジュアル・プレゼンテーションⅠ	Budgell Brian Stephen
二年度	第13章 オーディオビジュアル・プレゼンテーションⅡ	Budgell Brian Stephen
二年度	第14章 再評価	Budgell Brian Stephen
二年度	メタアナリシス	野口善令
三年度	臨床研究イントロダクション	福原俊一
三年度	リサーチ・クエスションの作り方	福原俊一

多目的 Website コンテンツのヒット数

多目的 Website コンテンツ	ヒット数 (一月あたり) (2008年4月～2009年3月10日現在)
研究班の紹介	4599 (383.3)
臨床研究イントロダクション	4575 (381.3)
イベントガイド	2788 (232.3)
最新ニュース (ワークショップ等のお知らせ)	2140 (178.3)
自習教材の玉手箱	1878 (156.5)

II. Education (人材育成)

<若手リーダー候補受け入れ>

- 平成 19 年度には、MCR コースに 4 名の若手医師が入学し、集中的なコースワーク（研究デザイン、疫学、統計学、データ解析実習、データ統合型研究、プロトコールマネジメント法など）の履修、プロトコールの作成、課題研究発表を行わせた。
- 各研究ユニットからプロトコールのうち、2 つのプロジェクトが若手医師が

中心的になり、進行中である。

<初年度教育の継続>

- 臨床研究に関する系統的な教育を継続し、受講生からは高い授業評価と満足度評価が得られた。

<多目的 Website の活用>

- 多目的 Website を活用し、個人に対する教員の個人指導を行った。ログが記録されることで、プロジェクトの進行が明示化され、メンタリングの効率化に寄与したと考えられる。

若手リーダー候補受け入れ状況

ユニット名	初年度	二年度	三年度
音羽病院	1	1	0
天理よろづ相談所病院	0	1	0
地域	1	2	3

III. OJT

<ユニット・リーダー設置と教育活動>

- 各ユニットに、人材育成プログラム修了者をユニット・リーダーおよびサブ・リーダーとして 4 名配置した（2 病院に 3 名、地域に 1 名）。
- ユニット・リーダーを中心に、モデル病院での研修医の研究能力開発支援、後期研修医に対する抄読会の企画・実施（計 25 回）、疫学レクチャー（計 7 回）、リサーチ・ラウンド（計 10 回）を行い、院内での教育活動を行った。毎回 10 名程度の参加者が得られた。

<プロトコール作成・倫理委員会>

- ユニット研究プロジェクトにおいて、若手医師が中心となり、研究プロトコールの作成・倫理委員会への申請を行

うという OJT を行った。

<各ユニットにおけるモデル研究プロジェクトの進捗状況>

- モデル研究プロジェクトは、以下数プロジェクトを行なった。
- 地域ユニット
 1. 「プライマリ・ケアにおける COPD・喘息の診断支援ツールの開発と検証」：研究計画、データ収集終了、解析中
 2. 「日本のプライマリ・ケア医における皮膚腫瘍の初期診断の質に関する研究」：研究計画、Web を活用した学習システム、質評価システムを構築、研究開始
 3. 「入院中に発症した軽症 Clostridium difficile 腸炎患者の診療パターンに関す

- る記述研究」
- 天理よろづ相談所病院
 - 4. 「クロストリジウム腸炎の診断を予測するための臨床予測ルールの開発とその妥当性の検証」：研究計画、データ収集終了、350名での中途解析終了。
 - 5. 「糖尿病患者を対象としたうつ状態のスクリーニングについての研究」
 - 6. 「研修医の診療実態調査」：研究計画、データ収集、解析、論文化、アクセプト
 - 音羽病院
 - 7. 「誤嚥性肺炎の予後予測」：研究計画、データ収集、解析、論文化中
 - 8. 「尿中レジオネラ抗原検査のメタ分析」：研究計画、データ収集、解析、論文化、国際学会誌に論文受理 (Shimada T, Noguchi Y, JL.Jackson, Miyashita J, Hayashino Y, Kamiya T, Yamazaki S, Matsumura T, Fukuhara S. Systematic review and meta-analysis: Urinary antigen tests for Legionellosis, *CHEST* (in press))
 - 9. 「誤嚥性肺炎に対する寒天固形化栄養剤の予防効果についてのランダム化比較試験」：研究計画、データ収集中
 - 薬剤師
 - 10. 教育セミナーに参加した薬剤師が臨床研究のプロジェクトマネージメントを経験し、将来のリーダー要請、また臨床研究を中心としたネットワーク形成を目的に、モデルプロジェクトを計画し、パイロット調査を行った。
 - 看護師
 - 11. 看護師を対象に事例から研究テーマを絞り、研究が実施可能な形にまで、疑問を構造化することをテーマにしたワークショップを行った。参加者のほとんどが臨床研究に関わっていたが、研究の初歩から再度、見直す機会を提供し、参加者からは高い評価を得た。
- <多目的 Website 活用>
- 多目的 Website の Web 掲示板、ログ機能つき ML を活用し、プロジェクトの企画立案・実施・解析において、研究指導を行った。離れた病院等で勤務する臨床医と大学研究者が、協力して研究を進めるためのプロジェクト支援として活用された。

モデル研究プロジェクトの進捗状況

○済 △進行中

NO	研究ユニット	研究テーマ	達成度					
			研究計画書	倫理申請	データ収集	解析	論文化	論文受理
1	音羽病院	「誤嚥性肺炎の予後予測」	○	○	○	○	△	
2	音羽病院	「尿中レジオネラ抗原検査のメタ分析」	○	○	○	○	○	○
3	音羽病院	「誤嚥性肺炎に対する寒天固形化栄養剤の予防効果についてのランダム化比較試験」	○	○	△			
4	天理よろづ相談所病院	「クロストリジウム腸炎の診断を予測するための臨床予測ルールの開発とその妥当性の検証」	○	○	○	△		
5	天理よろづ相談所病院	「糖尿病患者を対象としたうつ状態のスクリーニングについての研究」	○	○	○	○	○	
6	天理よろづ相談所病院	「研修医の診療実態調査」	○	○	○	○	△	
7	地域	「プライマリ・ケアにおけるCOPD・喘息の診断支援ツールの開発と検証」	○	○	○	△		
8	地域	「日本のプライマリ・ケア医における皮膚腫瘍の初期診断の質に関する研究」	○	○	△			
9	地域	「入院中に発症した軽症 Clostridium difficile 腸炎患者の診療パターンに関する記述研究」	○					
10	薬剤		△					
11	看護		△					

D. 考察

- ・ 臨床医・看護師・薬剤師の臨床研究に対する人材育成、学習機会、学習コンテンツのニーズアセスメントを行い、人材育成のニーズの高さや、リサーチ・クエスションの要素の理解や構造化のスキルの習得にニーズが高いことが明らかとなり、具体的な人材育成や学習機会・学習コンテンツの提供方法を明確にできた。
- ・ 初年度のニーズアセスメントに合致した少人数のワークショップを臨床医・看護師・薬剤師向けに計 10 回開催し、高い評価と満足度評価が得られた。また、実際の学会抄録を用いたワークショップや英文抄録を作成するワークショップという新規企画・実施を行い、今後のワークショップのモデルとなることが示唆された。
- ・ さらに、多目的 Website を通じて、臨床研究の総説(臨床研究イントロダクション)やニーズの高かった学習コンテンツを提供した。多目的 Website は 3 年次のみでも 4000 件を越すヒット数があり、臨床研究の Awareness として多目的 Website は適切であったと考えられる。
- ・ 臨床研究の専門家育成のため、中堅医師・研修教育病院に対する臨床研究に対する認識を明らかにする調査を行った。臨床研究に関心が高いことが示されたが、
 - 1) ハード・ソフト面でのインフラストラクチャーの不整備(臨床研究者養成の教育システム、コンサルテーションの仕組み、専門家、系統的な臨床情報の収集、データベースの作成、研究資金)、
 - 2) 人材育成(指導医層、若手医師層、リサーチ・アシスタント)の不足等の問題点が抽出された。
- ・ また、臨床研究実施の障害となっている時間・人手・専門家の不足、さらに臨床研究を実施する財政的な仕組みがないことに対する方策は十分に立てられていない可能性が示唆された。今後、臨床研究実施の障害を解消する具体的な方策を推進する必要がある。
- ・ 一方で、このような状況にもかかわらず若手医師は臨床研究を行いたいという高い動機付けを持っていることが明らかとなり、この高い動機付けをわが国の医学の発展に結びつける必要がある。
- ・ また初期研修医の志向が低い研究分野は、集団を対象とした予防疫学研究、医療経済に関する研究、患者心理や患者・患者家族とのコミュニケーションの問題を扱う研究、医療倫理に関する研究、医療サービス・医療政策に関する研究、であることがわかった。
- ・ わが国の医療の質や患者・国民の健康アウトカムの維持・向上には治療・予防的側面と社会的側面の両者に対してバランスをもった視点が必要であり、これらの研究領域の重要性を若手の医師にこれまで以上にアピールする必要がある。
- ・ 人材育成(ユニット・リーダー、サブ・リーダー)の目的で、京大の MCR プログラムで集中的なトレーニングを行った。これまで 4 名の医師および 1 名の薬剤師を育成した。最終年度も 3 名の医師(地域研究ユニット)を育成予定で

ある。

- 各ユニットおよび薬剤グループで11件のモデル研究プロジェクトが実施され成果が得られた。そのうち半数以上はデータ収集を終了し、データ解析、論文作成中である。そのうちの一部は論文化に成功し、海外の学術誌に原著論文が受理された。

F. 研究発表

1. 論文発表

福原俊一：臨床研究者育成のための戦略とロード・マップ、学術の動向 2006.08

杉岡 隆，福原 俊一：総合診療における研究の魅力ー量的研究ー，カレントセラピー（特集 総合診療への誘いー総合診療を語り尽くす），25(10):40-43, 2007

福原 俊一：エビデンスをつくる臨床研究者育成ー新しいリサーチ・コミュニティの創生ー，医学教育（特集／Population-based Medicine の教育：個人から集団へ），38(2):83-88, 2007

福原俊一編，臨床研究の新しい潮流ー医学研究のパラダイム・シフト，東京：医歯薬出版；2008.

福原俊一，渡部一宏：臨床研究フェローシップ構築に関する研究（Close Up 最先端の医学と患者・社会をつなぐプロを育てる），GSK *Pharmacist Journal*, 22, 12-14, 2008

渡部一宏：保険薬局における臨床研究のス

スメ（Step Up 地域で貢献する薬剤師へ），*Quality Pharmacy*, 18, 6-7, 2008

渡部一宏，福原俊一：日常業務から Research Question へ ①臨床研究をはじめよう，*Pharma Tribune*, 1, 17-20, 2009

渡部一宏，福原俊一：日常業務から Research Question へ ②研究のタネをみつけよう，*Pharma Tribune*, 2, 15-21, 2009

林野泰明，福原俊一，RESPEQT 研究グループ：研修医の大学大学院進学希望は低くない，*醫事新報* No.4422:70-74, 2009.

三品浩基，横山葉子，川上浩司，福原俊一：臨床医を対象とした臨床研究への関心および教育のあり方についての調査，*医学教育* 40（2）：in press.

2. 学会発表

林野泰明，福本陽平，村上不二夫，早野順一郎，兼松孝好，福井 博，井野晶夫，相馬正義，進藤敦史，郡 義明，石丸裕康，渋谷克彦，井村 洋，山口 徹，竹内靖博，松井邦彦，野口善令，小崎真規子，島田利彦，岡村真太郎，有村保次，宮下 淳，福原俊一，RESPECT 研究グループ：新臨床研修制度施行前後の研修医の医療の質の経時的変化，*総合診療医学*, 2009;14:40.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

多目的 Website の公開頁例

臨床研究フェロースhip構築に関する研究
 厚生労働省厚生科学研究 臨床研究基盤整備推進事業



TOP 研究班について イントロダクション 自習教材 FAQ お問い合わせ

訪問者メニュー

- [ホーム](#)
- [研究班について](#)
- [臨床研究イントロダクション](#)
- [イベント・セミナーの案内](#)
- [「ひふしん」のページ](#)
- [よくある質問と回答](#)
- [お問い合わせ](#)

ログイン

ユーザ名:

パスワード:

パスワード紛失

[新規登録](#)

サイト内検索

高度な検索

臨床研究イントロダクシ
 ン

INDEX

- 1. 臨床研究と医学・医療のミ
 ヂッション
- 2.1 リアル・ワールドでのエビ
 デンスを作る研究
- 2.2 エビデンスを診療現場に
 浸透させる研究
- 3.1 個人レベルの意思決定
 支援
- 3.2 社会レベルの意思決定
 支援

当サイトについて

厚生科学研究 臨床研究基盤整備事業「臨床研究フェロースhip構築に関する研究」 Webサイトへようこそ。

「臨床研究フェロースhip構築に関する研究」は、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻(主任研究者:京都大学 医療疫学分野 福原俊一)が中心となり、将来の臨床研究を担う若手研究者の人材育成を推進する事業です。(詳細は [こちら](#) をご覧下さい)

このwebsiteでは、登録者むけ研究フォーラムなどの場や、医療プロフェッショナル向け公開セミナーなどに関する最新の情報を提供いたします。

最新ニュース

- 自習教材「リサーチ・クエストの作り方」を公開しました。(2008-9-17)
- 「あなたの英文抄録ブラッシュアップ内側と外側から見ます」(2008-4-2)

イベント案内

最新イベント案内は現在ございません。

臨床研究イントロダクション

この「臨床研究イントロダクション」は、臨床研究についての入門的な情報・知識を集約したものです。臨床研究に初めて触れる人、研究などで「臨床研究」について広く浅く知る必要がある人などを対象として作成されています。

内容は、できるだけ専門用語を多用せずわかりやすく説明することを目的に作られています。本格的な臨床研究を行う場合や、臨床研究についての論文を批判的に検討する場合には、より専門的な書籍等での学習・調査を推奨します。

ご覧になるには、上部メニューの「イントロダクション」をクリックしてください。

臨床研究フェロースhip構築に関する研究
INDEX

TOP 研究班について イントロダクション 自習教材 FAQ お問い合わせ

訪問者メニュー

ホーム
研究班について
臨床研究イントロダクション
イベント・セミナーの案内
「ひふしん」のページ
よくある質問と回答
お問い合わせ

ログイン

ユーザ名:

パスワード:

パスワード紛失

新規登録

サイト内検索

高度な検索

臨床研究イントロダクシ
ン

INDEX

1.臨床研究と医学・医療のミ
ッション2.1 リアル・ワールドでのエビ
デンスを作る研究2.2 エビデンスを診療現場に
浸透させる研究3.1 個人レベルの意思決定
支援3.2 社会レベルの意思決定
支援

臨床研究イントロダクション

厚生労働科学研究費補助金(臨床研究基盤整備推進事業)
臨床研究フェロースhip構築に関する研究
主任研究者: 京都大学医療疫学分野 教授 福原俊一

このイントロダクションについて

この「臨床研究イントロダクション」は、臨床研究についての入門的な情報・知識を集約したものです。臨床研究に初めて触れる人、研究などで「臨床研究」について広く浅く知る必要がある人などを対象として作成されています。

内容は、できるだけ専門用語を多用せずわかりやすく説明することを目的に作られています。本格的な臨床研究を行う場合や、臨床研究についての論文を批判的に検討する場合には、より専門的な書籍等での学習・調査を推奨します。

使い方

目次からリンクをたどり、必要なページにアクセスしてください。
左側の「検索」機能を使って、当サイト内を検索することも可能です。

目次

I章 臨床研究とは何か

- 1.臨床研究と医学・医療のミッション
- 2.二つのTranslational Research
 - 2-1.リアル・ワールドでのエビデンスを作る研究
 - 2-2.エビデンスを診療現場に浸透させる研究
- 3.個人と社会レベルの意思決定支援
 - 3-1.個人レベルの意思決定支援
 - 3-2.社会レベルの意思決定支援

※このイントロダクションの内容は、出版予定の著書の一部を、著者の許可を得て掲載したものです。

コンテンツのトップ





次のページ

1.臨床研究と医学・医療のミ
ッション

ホーム | プライバシー・ポリシー | 運営組織(京都大学医学研究科 医療疫学分野)

Powered by XOOPS Cube 2.0 © 2005-2006 The XOOPS Project

臨床研究フェローシップ構築に関する研究
自習教材の玉手箱 - INDEX

	TOP 研究班について イントロダクション 自習教材 FAQ お問い合わせ
<p>訪問者メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ホーム 研究班について 臨床研究イントロダクション イベント・セミナーの案内 「ひふしん」のページ よくある質問と回答 リンク集 お問い合わせ <p>登録会員メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 自習教材の玉手箱 研究班フォーラム ML With Archive <p>自習教材の玉手箱</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究の入り口 リサーチクエスチョンを立てる メタアナリシス 英語による臨床研究の論文文化技法 <p>LINKS</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都大学 京都大学医学研究科 医療疫学研究室 MCRコース <p>リサーチラウンド</p> <ul style="list-style-type: none"> リサーチラウンドTOP 投稿する アーカイブ一覧 リサーチラウンド操作手順 <p>サイト内検索</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;"> <input type="text" value="検索"/> </div>	<div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <h2>自習教材の玉手箱</h2> <h3>臨床研究ミニレクチャー: 入門編</h3> </div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <p>臨床研究の入り口 </p> </div> <p>名郷 直樹(地域医療振興協会)</p> <p>その1:「論文のイントロダクションを読む」 その2:「文献データベースと検索」 その3:「文献の整理」</p> <p>この教材は、書籍『臨床研究の入り口』(NPO法人健康医療評価研究機構)として出版予定となっております。当サイトではその一部を著者の好意で公開しています。</p> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <p>リサーチ・クエスチョンの作り方 </p> </div> <p>福原 俊一(京都大学)</p> <p>リサーチ・クエスチョンの作り方を、7つのステップに分けてわかりやすく解説しています。</p> <p>この教材は、書籍『リサーチ・クエスチョンの作り方』(福原俊一著、NPO法人健康医療評価研究機構 京都 2008)の内容の一部を、著者および出版元の許可を得て、掲載しています。</p> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <h3>臨床研究ミニレクチャー: 中級編</h3> </div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <p>メタアナリシス </p> </div> <p>副題: フィールドとお金がなくてもできる臨床研究</p> <p>野口 善令(名古屋第二赤十字病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ メタアナリシスとは何か ■ 異質性(Heterogeneity) ■ 一次研究の質の評価 ■ 出版バイアス(Publication Bias) ■ 文献検索(Literature Search) ■ 実際にやってみましょう <p>この教材は、書籍『メタアナリシス』(NPO法人健康医療評価研究機構)として出版予定となっております。当サイトではその一部を著者の好意で公開しています。</p> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <h3>臨床研究WEBテキスト</h3> </div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;"> <p>英語による臨床研究の論文文化技法 </p> </div> <p>Budgell Brian Stephen(京都大学医学部保健学科)</p> <p>第1章 ニーズの評価 第2章 チェックリストとガイドライン 第3章 参考文献と情報源 第4章 英語の使い方 第5章 抄録(Abstract)と要約(Summary) 第6章 効果的な「結言」(Introduction)を書く</p>

高度な検索

臨床研究イントロダクション

INDEX

1.臨床研究と医学・医療のミッション

2.1 リアル・ワールドでのエビデンスを作る研究

2.2 エビデンスを診療現場に浸透させる研究

3.1 個人レベルの意思決定支援

3.2 社会レベルの意思決定支援

ユーザメニュー

アカウント情報

アカウント編集

イベント通知機能

ログアウト

受信箱

管理者メニュー

第7章 効果的な「方法」を書く

第8章 効果的な「結果」を書く

第9章 効果的な「考察」を書く

第10章 フォーマット

第11章 査読と論文掲載のプロセス(未公開)

第12章 オーディオビジュアル・プレゼンテーション I

第13章 オーディオビジュアル・プレゼンテーション II

第14章 再評価

上記の全てのコンテンツの著作権は、各著者に属します。無断転載・複製をお控えください。

コンテンツのトップ

次のページ
臨床研究の入り口